

## SCE・Net 12年の歴史と活動

(SCE・Net) ○ (正) 山岸 千丈\*

バブル崩壊後の90年代後半には各学会とも会員数の減少や行事参加者数の減少に見舞われ、企業に所属している技術者に学会の魅力をいかに作るかが大きな課題で、化学工学会でも部会制への移行などが進められました。一方、高度成長期に活躍したシニア技術者が、定年あるいは早期退職を余儀なくされ、心ならずも毎日を趣味の生活で過ごさざるをえず、その豊富な経験や知識を發揮し損ねて居るという話もありました。当時の定年は60歳が一般的でしたから、退職しても健康で意欲があるのに、組織を離れると活躍の場がなくなってしまうわけです。そこで退職したシニア技術者の潜在能力と、企業のニーズをマッチングさせる仕組みが作れないかという検討会が、1999年に化学工学会の有志(中島幹氏、岩村孝雄氏、松村眞氏、篠原孝順氏、命尾晃利氏、一色和明氏、斎藤浩氏)で始まり、2000年4月19日にSCE・Net (Senior Chemical Engineers Network)が化学工学会の産業部門の開発型中堅企業連携部会の部会活動として発足しました。そして現役時代に培った技術・経験を生かし社会に貢献したいと考えている退職シニア技術者を組織化し、活躍の場を与える目的で活動を始めました。

当初は法人会員を20~30社募り退職したシニア技術者を個人会員とし、企業からの広範囲な問い合わせや課題(ニーズ)を個人会員の潜在能力や豊富な経験・技能(シーズ)と適切に結びつける仕組みをインターネット利用で作成し、シニア技術者が企業や団体の技術的問題の解決に協力し、新しいシステムや考えの提案を行うことで社会貢献に寄与し、合わせて自己実現を目指そうという計画でした。インターネット利用の斬新な構想で立ち上げ、シーズ側の個人会員は集まったものの、肝心のニーズ側の法人会員が集まらず、当初はインターネットの維持費など会の運営費に苦勞する状況でした。そこで、入口の垣根を低くして、広く外部の法人からも相談・依頼を受け付ける方向に転換することにし、合わせて化学工学会からの事務経費などの補助も頂けるようになり、活動が軌道に乗りました。現在SCE・Netは産官学連携センター傘下の常置委員会として活動し、今年で12年目を迎えます。

また、シニア技術者側としても、過去の経験だけでは企業のニーズに答えるのに限界があるので勉強し自己研鑽も行っていないと受託仕事はとれないということで、安全研究会、エネルギー研究会、環境グループ(後に研究会)、装置材料研究会、教育研究会といった研究会を作り活動して来ています。この間の活動状況は日経BP Net Second Stageの2006年1月31日と

2月6日に「シニア技術者を生かす」の記事で取り上げられました。

しかし、設立当初の会員も入れ替り社会情勢も変化、団塊の世代の大量退職や年金支給年齢の上昇に伴い、企業も定年後も嘱託などで再雇用したり定年を延長したりして実質的な退職年齢が上昇、個人の退職後も働こうとの意欲の減少などもあり、SCE・Netの会員の意識も変化しました。過去の経験だけでは企業のニーズに答えるのに限界があるので勉強しようと始まった研究会への参加者も会員の半数以下という状況となり、2006年に会員に対するアンケート調査を行いました。その結果、かならずしも仕事や社会貢献だけを求めるのではなく、気楽に参加できる会になるようにとの期待も高く、相当数の人が懇親の場を設けることを希望していることが分かりました。そのため、外部受託事業など円滑に進めるためお互いに顔を知らなければと始めた技術懇談会の他に見学会を主体とした交流会が始まりました。

このように企業の課題解決に参加することのみが目的という会員は減ってはきましたが、シニア技術者に居場所を提供し、講演にてお話するように、この12年で外部受託事業(87件)、社会人教育事業、執筆活動(改訂版を含むが単行本6冊、雑誌連載物3件、化学工学会誌への書評掲載など他多数)、ほぼ毎月の各研究会活動、技術懇談会(73回)、交流会(11回)などで活発に活動し、化学工学会の知名度を上げるのに貢献しています。また、SCE・Netのような退職したシニア技術者に活躍の場を与える組織をもつ学会は少なく、化学工学会の大きな特徴と誇れると考えています。

SCE・Netに参加することは会員に以下のメリットがあると考えられ、現役の化学工学会の会員にも退職後にSCE・Netへの参加をお勧めする次第です。

- 1) 外部受託事業や社会人教育事業、執筆活動に参加することで社会貢献できます。
- 2) 技術懇談会で領域外の知識に触れ、研究会で勉強することでボケ防止だけでなく自分を活性化できます。
- 3) 研究会や交流会に参加しその後でお酒でも飲めば会社時代と違った楽しい仲間ができます。
- 4) SCE・Netの名刺を持ち社会貢献し自己実現をはかることで尊厳を維持できます。
- 5) 夫の退職後の妻の悩みは「主人が毎日家にいる」ことだそうです、濡れ落ち葉にならずSCE・Netの活動で外出すれば奥様へのサービスとなり家庭円満となります。

\* E-mail yamagishi@kuramae.ne.jp